

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790200414		
法人名	医療法人社団 平成会		
事業所名	グループホームアルコート南		
所在地	福島県会津若松市館馬町6番14号		
自己評価作成日	令和6年3月3日	評価結果市町村受理日	令和6年5月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和6年3月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者、お一人おひとりの生活史や今までの生活状況を把握し、入居当初から、安心して生活ができるよう支援させて頂いています。今まで行ってきたことや得意なことを把握し、役割作りをし、日常生活が充実できるよう支援させて頂いています。外出の支援も、感染症に配慮しながら行い、地域で暮らしている意識をもてるよう支援させて頂いています。
機械を利用した入浴や食事形態を工夫し安全な食事を提供するなど、要介護度に応じたケアを行い、安全に安心して生活できるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 法人が主催する「こやまカレッジ」があり、職員のキャリアに応じて研修を受講できる環境となっている。また、毎月職場内研修がある他、外部研修にも参加できるなどスキルアップ出来る機会が多く持たれている。新人職員には先輩職員が付きOJTが行われている。資格取得も資格給を設け推奨する等、人材育成の取り組みが行われている。
2. 介護計画に生活リハビリや機能訓練が盛り込まれ、生活の中に炊事の作業(食器洗いなど)、集団体操などが組み込まれ、利用者の機能維持を図る取り組みが行われている。介護計画に即した介護記録と利用者の気分や参加意欲なども含め記録され利用者の状況や変化がわかるようになっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	立案した事業所の理念を事務所に掲示し共有している。	開設時に職員間で話し合って定めた事業所理念を所内に掲示し、職員間で共有している。理念にある利用者を家族のように接することで利用者の居場所になることを目標に支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	かかりつけ医の受診や、外出レクリエーションを実施し、交流が図れるよう支援している。	町内会には未加入ながら運営推進会議委員として区長と民生委員に委嘱し、地域とのつながりを持てるようにしている。会津まつりの行列が事業所近辺を通るためお祭りの雰囲気味わえている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルスの影響にて地域の人々に向けて認知症ケアの支援は出来ていないが、運営推進会議の報告で認知症ケアの勉強会の開催等の報告を行い、支援できる体制があることを伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの影響で、運営推進会議は開催出来ていないが、文書での報告を行い、運営面の助言を頂いている。	運営推進会議は毎回書面開催で行われ、利用状況や事故・ヒヤリハット件数、行事、防災訓練、研修状況を一覧票にまとめたものを配布している。意見用紙と返信用封筒も同封し意見の提出を促している。	併設しているアルコート南Ⅱとの合同開催なので、「1年度の開催回数の半数を超えない」(平成30年度改定)範囲で開催することが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	外部評価の報告等を通じて施設の取り組みを伝え、協力関係を築けるよう務めている。重大事故があった際は報告し、連携を図っている。	市の研修会に参加する他、外部評価結果の報告や事故報告の際には行政窓口に出向き担当者と顔を合わせ協力関係を築けるよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を発足し、3か月に1回委員会を開催し、身体拘束や高齢者虐待に関しての勉強会の開催や、日頃のケアを振り返り、日々取り組んでいる。	定期的に身体拘束委員会を開催し、身体拘束につながりやすいヒヤリハットや事故について振り返り、事例を通して身体拘束をしないケアについて話し合っている。その中でスピーチロックも身体拘束につながることを学び拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	福-1	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についての勉強会を開催や普段のケアを振り返り、虐待につながる行為はないか確認している。	今年1月に虐待防止指針を策定し、虐待防止委員会を設置している。内部研修で虐待防止法の内容を周知し、参加職員からアンケートを取り理解度の確認もしている。また、法人の高齢者虐待チェックリストでケアの振り返りを行い防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、後見制度を活用しているご利用者はおらず、学ぶ機会が乏しい為、今後は勉強会等を開催し、必要な方は支援できるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、ご利用者やご家族に丁寧な説明を心がけ、説明後は疑問点がないかお聞きし、その都度説明をさせて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回、ご利用者、ご家族にアンケートを実施し、意見や要望から改善し、運営に反映している。	利用者からは日々のケアの中から要望を聞いてケアに反映している。毎年1回「平成会利用者満足度アンケート調査」があり、法人から集計結果と事業所の良い点や改善点がコメント付きで示され運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議帯や日頃のミーティングを通して、職員の意見を出し合い、運営の改善向け日々取り組んでいる。	管理者は日々のミーティングや職員会議で職員の意見を把握するよう努めている。勤務調整や行事計画等について意見が出され運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所目標に沿った個人目標を設定し、半年ごとに目標の実績や反省を行い、定期的に面談をしながら個人個人が働きやすい環境になるよう努めている。		
13	福-2	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回テーマ別に内部研修を開催したり職員の力量にあった外部研修に参加し、職員の力量向上に努めている。	法人はこよまカレッジを主催し職員の能力に応じた研修を行っている。また、事業所内研修の他、外部研修にも参加させ育成に努めている。新人は先輩職員がOJTで育てる他、資格給を設け取得を推奨している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会主催の研修会の参加や協議会の会議を通して他事業所と交流する機会を確保している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居した際に、不安を軽減できるように、契約時や契約前の情報聞き取りの際に、ご本人の状態を把握し、サービス時になるべく不安を軽減できるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの不安なことや要望は利用前にお聞きし、要望等に沿えるよう努めている。利用開始後もご本人の様子をお伝えしながら、ご家族の要望に応えられるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	受診介助など、ご本人やご家族が現在必要としているサービスを見極め、提供している。必要としている支援はプランニングし支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に家事を行ったりしながら同じ視線で活動し、時間をかけて関わりを持ち良い関係性を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が受診付き添いを希望される方は、付き添いして頂いたり、家族と一緒に外出し交流を図り、共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方との電話や面会等を通じて関係が途切れないよう支援している。	家族からの電話や面会があり関係継続がなされている。また、家族が同行して受診や美容院に出かけており、馴染みの場や人に会う機会を持っている。外出の際は自宅を見て来る利用者もおり情緒の安定につながっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者が円滑に交流が図れるよう座席を工夫したり、一緒に家事を行って頂き、支えあえるような支援をさせて頂いている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、他の施設への紹介等を行い、ご本人、ご家族が不安なことにならないよう支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中でご本人の思いや意向・要望等の把握に努め、情報共有し1人ひとりの思いに沿った暮らしができるよう支援している。	居室担当が日々の生活の中から思いを把握し記録に残している。家族からは受診時や電話があった時に要望を聞いている。把握した要望や思いは暮らしに反映できるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、ケアマネージャーからこれまでの生活歴を把握し、職員間で情報共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で1日の過ごし方を把握し、状態変化があった際は、報告を行い、情報共有し把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の状態について職員間で情報共有したり、変化があった際はご家族へお伝えし、意見などがあればカンファレンスやミーティングで伝達しプランニングにつなげている。	介護計画は本人の思いや家族の希望を入れて作成している。ケアマネージャーが介護記録からモニタリングを行い計画の評価をして3か月毎見直している。要望は機能訓練や生活リハビリの中に反映され利用者の機能維持につながる支援となっている。退院など状態変化時は随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や生活記録を記入し、より良いケアに向けて職員間で共有し介護計画の見直しに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態やご家族の状況に応じて、受診の変更や必要物品の購入など、その時に合った支援ができるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族同行での外出やかかりつけ医の受診、理美容の利用等、今まで利用していたものを継続していけるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望を把握し、かかりつけ医の受診や、受診が難しくなった際は、往診での医療を受ける等、適切な医療を受けれるよう支援している。	入居時に利用者・家族と話し合い、希望する医療機関に受診できるよう支援している。受診時に受診記録表で医師に利用者の状態を伝えている。職員が対応した場合は電話で家族に受診結果を報告し、医療機関・職員・家族と情報共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康状態や体調の変化があった際は、その都度看護師へ報告し、指示を受け適切な支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院した際には、病院関係者との連絡を密に行い、日頃の定期受診の際には、医師をはじめ関係者と情報を共有し連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合や終末期の意向をご本人、ご家族と話し合い、現段階での意向をお聞きしている。実際にそうなった際には再度、ご本人、ご家族へ説明し今後のことを話し合っている。	入居時に「重度化・看取りに関する指針」を示し事業所として対応しうる終末期・看取りについて利用者と家族に説明し同意を得ている。重度化した場合は再度家族の意向を確認した上で関係者が情報共有し看取り計画の下支援に当たることとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え、応急手当や初期対応の訓練を実施し、実際の場面では慌てずに行動出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練で様々な災害の想定で訓練を実施し、利用者が安全に避難できる方法を身に付けられるよう努めている。	年1回の消防署立会の総合訓練の他、年間計画に基づき火災・水害・地震等を想定した法人と合同の訓練を毎月実施している。水害時には近くの法人内有料老人ホームの屋上に垂直避難することとしている。緊急連絡網も整備されており、缶詰・レトルト食品等3日分が備蓄されている。	災害時に地域との協力体制がないので、運営推進会議の地域代表委員の参加を得るなど地域における協力体制の構築が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方に応じた尊重した声掛け、プライバシーに配慮した対応をしている。認知症ケアや身体拘束廃止の勉強会を実施し、尊厳を守り尊重したケアを行えるよう努めている。	トイレや浴室での更衣時には扉やカーテンを閉める等プライバシーに配慮するケアの徹底を図っている。トイレ誘導時には耳元で声かけをするなど言葉遣いや態度に気を配っている。また、利用者の個人情報については施錠できる書庫で管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お好きな飲み物の選択や、その都度、希望を把握し支援できるよう努めている。希望を伝えるのが難しい方はその方の様子や言動から支援できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者のペースを大切に、居室で過ごしたり、好きな物を行ったりとご本人に合わせた生活の支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人のご希望の服装と一緒に考えたり、爪切り等の清潔を保持し、その方らしい身だしなみができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食事を楽しめるよう一緒に作業を行って関わって頂く工夫をしている。食事の準備や盛り付けを一緒に行い、楽しく安全な食事が出るよう努めている。	チルドを利用した食事を基本としているが、毎月の「お客様会議」で利用者の意見や希望を把握し、郷土食であるこづゆや天ぷらを提供するなど、季節感を感じることができるよう工夫している。食事の準備、盛り付け、食器拭き、片付け等利用者と一緒に食事作りをして持てる能力を活かせるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスのとれた献立に沿った食事の提供をしている。一人ひとりの食事量を把握し、食事を提供している。又、水分は十分な量が摂れているか、毎月チェックしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きや口腔ケアを行い、できる部分をご本人に行って頂き、できない箇所は支援し、清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限りトイレでの排泄が出来るよう、その方に応じて声掛けや誘導を行い支援している。	排泄パターンやサインを良く観察し、出来るだけトイレで排泄できるようトイレに誘導し自立排泄を支援している。入居後にオムツ使用者がリハビリパンツに改善した方もいる。自分でトイレに行ける方もいるので、排泄の観察を怠らないようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分摂取や、必要に応じて体を動かす働きかけを行ったり、便秘予防につなげている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人が入りたい時間を把握し、無理のないように個人に沿った支援をしている。	週2回の入浴支援を行い、重度化した方には機械浴で対応している。入浴剤や菖蒲湯などを活用し入浴が楽しめるよう支援している。入浴を拒む利用者には、入浴日や時間、担当者を変える等工夫しながら対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	環境を整え、その方に応じて安心して休息や睡眠がとれるよう努めている。その中でも日中の活動をなるべく多くしながら、夜間入眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の種類、目的、副作用を理解できるよう、説明書きや受診記録を確認し把握している。変化があった際は薬の作用によるものか、看護師や医師へ報告し、必要な支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	茶碗洗いや、食器・お盆拭き、米とぎ、衣類たたみや調理等、ご本人の持っている力を引き出せるよう役割つくりをしている。好きなことを把握し取り組めるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族との外出支援、定期的な散歩や季節ごとの行事を企画実施し、出かける機会を設ける支援を行っている。	天気の良い日には事業所周囲の散歩や芦ノ牧温泉までドライブし、足湯を楽しんでいる。会津祭りの行列が事業所近くまで来るので見学してお祭りを楽しんでいる。また、通院の際には、家族や職員と外出し、気分転換の機会になっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、ご利用者でお金を使用する機会は少ない状況ではあるが、ご利用者・ご家族からご希望があればその都度対応できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と電話連絡を行った際にはこちらからお声掛けしてご家族とお話する機会を設けている。手紙のやりとりはないが、手紙やはがきが家族から届き、喜ばれる姿が見られる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じて頂けるような飾りで工夫したり、行事や日常の写真掲示や作品を掲示し、楽しんで頂けるよう努めている。	24時間換気システムに加え定期的に窓を開けて換気し、晴れた日は、適宜カーテンを用いて眩しくないように配慮して居心地良い空間となっている。職員が毎日清掃を行い、共用ホールにはソファや写真・新聞等を置き、ゆったりくつげるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室やホール等、施設内を自由に往来出来るような雰囲気づくりや環境を整え、気の合う人同士の席の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	居室内は、なじみの家具の持参やご家族や馴染みの方の写真などを飾るなど、安心できる空間作りをしている。	居室には、ベット・エアコン・クローゼット・洗面台が備え付けられており、利用者は携帯電話・筆筒・ラジオ等馴染みのものを持ち込んでその人らしい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	プライバシーを配慮の上で居室前には名前と、ご本人の写真を貼り自分で居室が分かるようにし、トイレには「ここはトイレです」と大きく書いた紙を貼り、安全に生活できるように工夫している。		